

平成20年度県立取手第一高等学校自己評価表

目指す学校像	本校の校訓（至誠・醇厚・自彊）の精神のもとに自ら学び自ら考える力を育み、社会の変化に対応できる能力を備えた心豊かな人間の育成に努める。また、総合学科としての進学校を目標に教職員が一致協力し学校運営に努め、生徒一人一人の進路希望の実現と明るく活力ある学校づくりを目指す。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
各分野の目標を達成するための教育課程がほぼ定着し、確かな学力を育成する指導のより一層の工夫に努める必要がある。特にアカデミック系列では希望する大学への進学が可能となる学力を養う指導、プラクティカル系列・インフォメーション系列では資格取得を進める指導が成果をあげてきている。	1 総合学科における効果的な進路指導方法の工夫・改善を図る。	①教育課程の改善や進路目的別クラスの編成など分野・系列別指導を徹底する ②HT, MTとの面談を通して進路希望と結びついた、より望ましい科目選択をさせる。 ③キャリア教育の研究・実践を推進する。 ④情報分析と資料提供を積極的に行う。 【国公立大学合格者10名、私立大学短期大学 合格者120名】	A
	2 大学進学希望実現にむけた効果的な学習指導方法の確立を図る。	⑤授業時間を確保し、興味・関心を持たせる授業を展開する。 ⑥授業のより一層の充実をはかり、生徒の学習意欲を喚起する。 ⑦小テストや週末課題を実施し、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。 ⑧増進課外指導の継続や自習室・Q&Aルームの有効活用を図り、一般入試に対応できる学力を身につけさせる。 ⑨専門性や資格取得を活用した推薦入試体制を一層推進する。	B
	3 心の教育の充実を図る。	⑩基本的な生活習慣を確立させ、安定した高校生活を送れるようにする。 ⑪丈夫な体をつくり、豊かな感性を養う。 ⑫ボランティア活動や道徳教育を推進させ、心の教育の充実を図る。 ⑬教育相談体制の充実を図る。	B
	4 高校生活の充実を図る。	⑭体験入部や部活動紹介を通して部活動加入率を高める。 【部活動加入率 50%】 ⑮芸術鑑賞会等の学校行事や各種委員会活動の充実を図る。 ⑯心身の健康保持増進のための環境整備に努める。 ⑰各校務分掌、保護者・地域社会との連携を密にする。	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科 国語	基礎学力の向上をはかる。	学校全体で取り組む漢字小テストに向けて、対策問題や家庭学習などの事前指導を実施する。また、その結果を把握し、国語科としての指導を行う。	⑥	B	B	・漢字小テストの見直し。 ・習熟度別授業の効果的な実施。 ・模擬試験対策。
		単元や教材の終了時には必ず語彙・文法・漢字などの小テストを実施し、事後の指導の徹底を図る。	⑥	B		
		漢字検定2級の資格取得に向けての補習を強化する。	⑦	B		
	古文・漢文・現代文を深く読解・鑑賞することで心豊かな人間づくりを目指す。	音読・朗読・暗唱などの読みの徹底を図ることにより、古典の世界に溶け込ませる。	⑩	B		
		古文単語テストや暗唱テストを実施し、関心を喚起することで次段階への足がかりとする。	⑥	B		
		要旨や感想文などをまとめさせることで、自己の内面を見つめ表現する力を養う。	⑩	A		
		進路に対応した授業を展開する。	進路別・習熟度別にクラス分けをする。また、生徒の実態に即した教材の採択をし、授業形態にも配慮する。	①		
一人ひとりの個性を伸ばすため、また多様化された社会に対応できるように、偏りのない多くの教材を学ばせるよう配慮する。	一人ひとりの個性を伸ばすため、また多様化された社会に対応できるように、偏りのない多くの教材を学ばせるよう配慮する。	①	A			
	読書指導を強化し、進路指導の一助とする。	①	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度（学期）への主な課題		
地歴公民	基礎学力を定着させる	教材や板書の内容をよく練り、必要な知識をしっかりと伝達できるように努める。	⑥	A	A	・視聴覚教材等による豊かなイメージの裏づけをもった確かな知識の向上と、地歴公民的思考力の育成をはかる。 ・授業内容に現代性を盛りこみ、また視聴覚教材を意図的に使用する。	
		単元や教材の終了時にはその内容に応じた小テストを実施し、事後の指導の徹底を図る。	⑦	A			
	進路に対応した授業を展開する	学習内容に応じて視聴覚教材やパワーポイントなどを適切に使用し、多面的な知識の定着を図る。	⑥	A			
		現在の社会情勢との関連付けを授業内容に盛り込み、進路実現や現代社会に生きる社会人になるために必要な知識を育む。	⑥	A			
	数学	基礎学力の定着をはかる。	基本計算の反復練習をさせる。	⑦	A	A	特になし
			習熟度別クラス編成により、きめ細かい指導を行う。	⑥	A		
			補習や課外を実施し、生徒個々の学力の伸長に努める。	⑧	A		
		家庭学習習慣の定着をめざす。	工夫した授業により、数学に対する興味・関心を高め、家庭でも学習するよう常に促す。	⑤	B		
			課題を定期的に与える。	⑦	A		
			課題テストを定期的実施する。	⑦	A		
	模擬試験・センター試験に対応した指導を行う。	教科書の例題や問いを説明する中で、模擬試験にもつながるよう意識した授業を行う。	⑧	B			
		模擬試験やセンター試験レベル等の問題を必要があれば取り入れ、基礎的な学力を高める。	⑧	A			
理科	科学的な事物・現象について関心や探究心を高める。	演示実験を多く行う。	⑤	B	B	・模擬試験の事前・事後指導を充実する。 ・進学指導部と協力し、効率的な課外・特編を行う。 ・生徒の興味関心を引くような授業を継続し、実験・観察・実習・映像資料の活要を	
		身近なものを例に出し、導入部分に力を入れる。	⑤	A			
		観察が困難なもの等については、CGや映像資料を活用する。	⑤	B			
	科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的に行い、レポートの考察に重点を置く。	⑥	B			
		課題研究などを行い、自ら課題を見つけ探求させる。	⑥	B			
		授業中の発問を工夫し、思考力を高める。	⑥	A			
	大学入試レベルの学力を身につける。	小テストなどで基本的な概念や原理・法則の定着を図る。	⑦	B			
		課外を積極的に行い、問題を解くことに慣れさせる。	⑧	A			
		模擬試験前には過去問を解かせ、模擬試験実施後には解説を行い弱点の克服に努める。	⑧	B			
保健体育	健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身につける。	⑪	A	A	・リーダーシップのとれる生徒を育成し、積極的・主体的に活動できる集団作りをする。	
		グループ学習を通して価値観を広げる。	⑪	A			
		自己実現に向けて、ライフ・スキルの向上を図る。	⑪	A			
	体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し、計画的に体力の向上を図る。	⑪	A			
		体づくり・体ほぐしを授業内で効率的に取り入れ、継続して行う。	⑪	B			
		測定・評価基準を確立し、生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	⑥	A			
		自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気活動するとともに、集団行動のマナーを身につけさせる。	⑩	A			
	自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気活動するとともに、集団行動のマナーを身につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声でのあいさつの励行等を指導し、積極的に取り組む姿勢を育てる。	⑩	A			
		声かけなどのコミュニケーションを通して、互いに尊重しあう態度を養う。	⑩	B			
		リーダーを中心として迅速な行動を促し、集団の目的が果たせるように指導する。	⑩	B			
音楽	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情や感性を高め、主体的な活動を行う授業を展開する	授業の目標に沿った授業計画を立案し、創造的な音楽活動の工夫をする。	⑥	A	B	・器楽の実技演習ではレベルに合わせた個別指導の工夫が必要。	
		個別のきめ細やかな指導により、演奏技能を高めるよう努める。	⑨	B			
		教科書の他、鑑賞教材や生の音楽を用いて、豊かな情操を養う。	⑤	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	美術	美術Ⅰ 作品制作、鑑賞を通して観察力や創造力を高め、自己の良さや個性を発見する。	鉛筆、絵具などの使い方を覚え、デザインに関する知識、美術表現の基礎を学ぶ。	⑥	B	美術Ⅰについては、鉛筆の使い方、描き方を詳しく説明していきたい。美術Ⅱは、美術の知識を意欲を持って学ばせるようにしたい。また計画的に作品を完成させられるよう指導したい。
			作品を制作、完成することにより創造する楽しさ、達成する喜びを味わわせる。	⑤	A	
			自身でコンセプトを考え、制作を行うことで、自己表現の発見と個性を感じさせる。	⑩	A	
		美術Ⅱ 発想力、構想力を高め、個性豊かな美術能力を育てる。	⑤	C		
		日本や世界の文化から生まれた美術表現を知り、表現方法の違いや美しさを感じ、豊かな感性を育てる。	⑤	C		
		作品制作前にコンセプトを考え、完成後に感想、反省、などの自己評価を書かせ提出させ、講評を行う。	⑥	B		
	書道	基礎的な知識や鑑賞法、表現法を習得させ、書道を愛好する心情や感性を高める。	使用する用具、用材の成り立ちや製法、使用法、保管の仕方を学びながらものを大切にすることを学ばせる。	⑩	B	・鑑賞教材を充実させ、豊かな表現技術の習得と意図した作品の制作が出来るようにする
			古典作品や、生徒間の作品を鑑賞させ、豊かな表現技術の習得と意図した作品の制作が出来るようにする。	⑥	B	
			授業の内容に適った教材の準備と工夫に努める。	⑥	B	
	英語	自発的な学習を目指す。	予習、復習の定着を計り、さらに計画的、継続的な週末課題の実施を通して自発的な問題解決学習へと導く。家庭学習の習慣化を図り、自発的な問題解決学習へと導く。	⑥	B	・3年間を見据えた指導計画を立て、家庭学習の習慣化を図る。まずは家庭学習をせざるおえない環境作りをする。 ・モーニングテストのあり方を考える必要がある。（結果を英語の成績に取り入れる） ・課外のあり方を学年ごとに話し合う必要がある。土曜課外も含めて課外の見直しを図る。 ・3年次でのメカ・情報のクラスで大学進学を希望している生徒が英語の授業を取れるようなカリキュラムを目指す。
		基礎学力の定着からさらなる実力の向上を目指す。	授業重視の学習に加え、問題演習やセンター入試対応問題の実践へと三年間を見据えた計画的な指導計画を立てる。また、モーニングテストへ意識付けを工夫し、基礎学力の定着・向上を目指す。	⑤	B	
		上位層生徒の伸張及び下位層生徒の向上を図る。	上位層の伸張を図るため、課外の在り方を構築する。	⑧	B	
	家庭	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	身近な生活課題を取り上げ、問題解決的な学習展開の工夫に努める。	⑤	A	身近な生活課題を取り上げ、実験・実習を取り入れて効果的に授業展開できた。次年度は単元ごとに学習内容・教材をさらに明確に工夫して指導していきたい。
			実験・実習により学習の効果を高める。	⑥	A	
			確実な定着を図る意味で学習を振り返り、自己評価・確認小テストを実施する。	⑦	B	
		興味・関心・楽しさを感じる授業作りに努める。	単元ごとに効果的で、生徒自ら主体的に学習活動を行う内容・教材を考え導入する。	⑤	B	
			学習環境を整備し火気、用具、材料等の取り扱いに注意し事故防止の指導を徹底する。	⑥	A	
	工業	単位制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	1年次の分野紹介における丁寧な説明と「分野基礎」の実施を通し、専門課程を熟知した上での分野選択を実現する。	①	A	・ものづくり教育を推進する。 ・技能検定実施に向け、前向きに検討する。
			1・2年次の授業で、「工業数理」「工業基礎」の内容を補い、基礎力を向上させる。	⑤	B	
		資格指導を充実させる。	「工事担任者」「ボイラー技士」については授業において積極的な指導を行い、適期に課外を行う。	⑧	A	
		「危険物取扱者」およびアーク溶接・ガス溶接の資格指導については裾野を広げた取り組みを行う。	⑧	A		
	時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。	ネットワーク技術やロボット・制御技術、およびCADなどの先端技術を取り入れた授業と実習を行い、作品や成果にもとづいた進路実現を図る。	⑧	B		
		レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取入れ、現代の技術者として必要な表現力を育てる。	⑧	B		
商業	わかる授業展開と学習意欲の喚起	生徒の基礎学力を把握しながら授業展開をする。	①	B	家庭学習を重視すると共に、生徒の実態にあった指導方法や補助教材の精選に心掛ける。	
	専門性と学力の向上	補助教材の活用と個別指導の充実を努める。	①	A		
	検定試験の合格率をたかめる	計画的な家庭学習及び課外授業を実施し、自学自習の定着を図る。	⑦⑧	A		
情報	情報社会において必要な基礎的な知識・技能を身につけさせる。	コンピュータ用語などの最新の用語を授業に取り入れ、小テストなどを実施し知識の習得を図る。	⑥⑦	B	・計画的に小テストや課題を与え、検定の合格率の向上と情報に関する興味関心を引き出す。	
		ワープロ、表計算、プレゼンテーション、情報収集などの実習を行い課題を提出させ、基本的な操作技術を身につけさせる。	⑤	A		
	資格取得をとおして、情報社会に対する興味・関心を引き出すと共に、進路に対する意欲を高める。	9月に情報処理検定、11月にワープロ検定を必須とし、更なる合格率の向上に努める。 情報処理検定 95%以上 ワープロ検定 80%以上	⑨	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務	現総合学科の教育課程の見直し	「教育課程検討委員会」とともに、現在の教育課程の問題点を探り、改善等を行う。	①	B	B	引き続き、分野・科目選択を含めた、教育課程の見直しをして、具体化する。
	資格・検定等のデータの有効利用	専門性や資格取得を活用した推薦入試・就職体制を一層推進するための資格・検定試験の合格者データなどの資料提供等ができるシステムをつくる。	③⑨	B		
	学校広報活動の充実	保護者・地域住民・中学生・卒業生との係わりをもつための広報誌の発行、「ホームページ」による本校の教育活動の紹介や各年次、校務分掌等の活動や情報の公開を継続・検討していく。	⑰	B		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	頭髮・服装指導を継続的に実施し、頭髮・服装の適正化を図る。	⑩	B	B	・生徒指導に関して教員の意思統一を図り、指導の統一と協力体制をつくりたい。 ・保護者、地域(幼稚園・勝中学校)との連携を重視する。
		毎日の遅刻指導と、月間の指導の併用により遅刻者の減少を図る。	⑩	A		
		登校指導を継続的に実施し、挨拶指導をするとともに、生徒とのコミュニケーションを図る。	⑩	B		
問題行動の予防	教科、HR、講演会をとおして問題行動の未然防止に努める。	⑫	A			
生徒指導	保護者・地域・関係諸機関	家庭との連絡を密にして、校則等の遵守に協力を依頼する。	⑰	B		
		保護者に、登下校指導や学校行事への積極的な参加を依頼する。	⑰	B		
		地域の青少年相談員や警察との連携を図る。	⑰	A		
進路指導	キャリア教育の研究・実践	生徒・保護者・教員にキャリア教育啓発の機会を設け、一層の意識の向上を図る。	③	B	A	・企業開拓及び求人確保
		「総合的な学習の時間」にキャリア教育の講座を設け、体系づけた指導を実践する。	①	A		
		インターンシップの拡充を図る。	③	B		
	就職指導の充実	総合学科に対応した求人開拓と企業への説明を行い、理解を求める。	⑰	B		
		年次およびハローワーク等校外との連携を強化し、就職未決定者を極力なくすよう努める。	⑰	A		
		ガイダンス機能を生かし、就職意識の向上および事前・事後指導の徹底を図る。	③	A		
適切な専修学校指導	生徒、保護者、教員に対して適切な情報提供および研修等の機会を設ける。	③	B			
	進路指導室の環境を整備し、個別相談・指導の充実を図る。	③	A			
進学指導	全生徒の進路実現のために要求される学力の向上、大学入試に対応できる応用力の増進	週2回の朝小テスト、Q&Aルーム、自習室、課外授業の充実など大学進学のためのさらなる学力向上のための取り組みの充実を計る。	⑦⑧	B	B	・小テストの扱いが商業系、工業系であいまいになっている。 ・一般入試をする生徒に対応したシステムの確立を急ぐ。 ・大学進学に関してもっとどん欲にアピールすべきである。 ・部会を定期的に開催する。 ・「しながく通信」を洗練する。
		電光掲示板、ホームページ、しながく通信、進学講演会、大学出張授業、個人面接資料配布などを通じて、教員への進学指導支援体制を確立する	④	B		
	大学進学指導体制の充実を図る 国公立大学合格者20名 私立大学合格者120名	年次、進学指導部間の連携を密にして、国公立大学を目指す生徒の個人指導を強化する。	④⑨	C		
		一般入試受験者数を倍増を目指し、より大学受験に則した学習活動の拡充に努力する。	⑥	B		
	指定校推薦、公募制推薦、AO入試における総合学科枠を確保するため大学訪問を積極的に行い、情報収集に努める。また国公立大学主催の出張授業を展開する。	⑨	A			
本校独自の大学進学指導用校内データの完成を目指す。	総合学科卒業生の個人データを蓄積、分析し、本校独自の合格指針を確立を目指す。卒業生の合格体験記を電子データ化する。	④	B			
特別活動	HR活動を重視し、豊かな心の育成を図る。	LHR・「道徳」・総合の時間等を活用し、心の教育の充実に努める。	⑫	A	B	・豊かな心の育成 ・部活動の加入率増加 ・PTAとのさらなる連携 ・生徒会を中心とした自治活動支援 ・国際交流支援
		ボランティア活動の活発化を図り、自ら社会に貢献する態度と心を育成する。	⑫	A		
	部活動の充実を図る。	新入生全員に部活動の紹介や体験入部を実施し、部活動や同好会への意欲を高めさせ、活性化を図る。	⑭	B		
	学校行事の充実を図る。	生徒会を中心とした自治活動を支援し、学校行事における生徒の主体的な取り組みを促す。	⑮	B		
		年次やHR・地域・PTAとの連携を図り、学校行事をより充実させる。	⑰	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題
保健	生徒の学習・生活環境を整備する。	校舎内外の安全点検と保健委員による清掃点検を実施する。	⑯	B	B ・生徒の学習、生活環境の整備に努める。 ・教育相談の充実を図る。 ・特別支援を要する生徒への対応の在り方を検討する。 ・生徒自らの心身の健康管理に対する意識を高める。
		定期的に水質検査や照度検査を実施する。	⑯	A	
	生徒の生活習慣と心身の健康の確立を図る。	健康診断や身体測定の結果を有効活用し、自ら健康管理に対する意識を高めさせる。	⑩	B	
		感染症の予防やケア対策を図る。	⑩	B	
	思春期の心の育成と豊かな感性を養わせる。	教育相談の体制と充実を図る。	⑬	B	
	より豊かな成長の確立を目指し、主体的に自らの心と身体に向き合えるよう講演会や保健便り等で情報提供する。	⑪	B		
渉外	総合学科としてのPTA諸活動の確立と活性化に努める。	参加者の増加のため総会・研修会への案内は郵送で行い、更に電話等でHT・クラス役員から参加を促す。事業については早期に企画・立案を行い内容の充実を図る。総合学科としてふさわし規約づくりを完成させる。	⑯	A	B ・PTA総会出席率15%を改善したい。同日に進路講演会など実施、保護者からの呼びかけを実施したい。保護者中心企画の事業は是非、継続のためのアシストを行っていきたい。同窓会は卒業生が中心となり運営が行われている。90周年事業成功に向けて教職員・保護者との接点を作りたい。
	PTA専門委員会・年次PTAを活性化し、学校外行事に積極的に参加する。	専門委員会と年次委員会の分業を推進し、有機的なつながりを持たせる。保護者の意見をくみ取りながら、教員側の施策を理解して頂くように努める。総参加人数の増加、責任分担を明確化する。県南・県・関東・全国大会等のPTA事業に関して参加して研修を深め、本校へ還元する。	⑯	B	
	同窓会組織の確立と活動の活性化に向け助勢する。	同窓生の膨大な人的財産を有効活用し学校諸活動に反映する為の協力を行う。役員会議・研修会・総会等に積極的に参加をして交流を図る。	⑯	B	
図書館	読書への興味・関心を高める。	年次との連携をもとに年次単位での集団読書を実施する。	⑪	C	B ・図書委員会活動の充実 ・読書教育の充実
		図書委員会主催で読書会を実施し、多くの生徒の参加を呼びかける。	⑪	B	
		読書感想文・読書感想画コンクールに応募する。	⑪	B	
	生徒・教職員の学習活動・教育活動を援助する。	教科・部との連携を図り、図書館資料を活用した学習活動が積極的に行われるように働きかける。	⑥	B	
		生徒の健全な教養を育成する資料の計画的収集および、活用に努める。	⑪	B	
		教職員の教育活動を援助する資料の収集や活用に努める。	⑤	A	
委員会活動の強化を図る。	高教研主催の研修会や図書委員会企画の校外研修会への参加を図る。	⑮	A		
	校内行事、放送コンテスト、アナウンスコンテスト等に参加する。	⑮	A		
3年次	学習活動の一層の充実を図る。	授業を大切にするとともに、生徒の能力・進路に応じた課外授業や補習、週末課題を実施する。	⑤⑥⑧	B	A ・学習面での実力アップが必要 ・進路決定後の指導に工夫が必要 ・進路指導に関して、進路、進学指導部が連携したシステムづくり
		資格取得や模擬テスト・実力テストを実施することで、生徒が学力を確認し、意識を向上させることで進路に繋がるよう指導する。	⑥⑦	A	
	進路希望に実現を図る。	情報の提供を積極的に行い、面接を適宜実施して生徒の希望・能力・適性を把握する。	④	A	
		進学希望者に対し、分野の特性や個人の適性を適切に把握し、AOや推薦などを含めた多様な入試に対応できるようアドバイスする。	③⑧⑨	A	
		就職希望者に対し、分野の特性や個人の適性を適切に把握し、的確な企業選択ができるよう本人・家庭との連絡を密にし、粘り強い指導を行う。 (数値目標 就職希望者の内定率100%)	③	A	
		2年次に引き続き、面談指導や進路相談を通して大学進学希望者を増やす。 (数値目標 大学進学140名 国公立大学進学20名)	④	B	
高校生という集団の中での自分を認識させ、望ましい生活習慣を身につけさせる。	3年次であることを自覚させ、決まりを守ることに重点を置いて指導する。	⑩	B		
	面談や観察を通して生徒個々を把握し、的確な指導・支援を行うことで、生徒個々、年次全体の健全な成長を促す。	⑩⑬⑯	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度（学期）への主な課題
2年次	基礎学力の定着と向上を図る。	授業を大切にするとともに、生徒の能力・適性に応じた課外授業や補習を実施する。	⑤⑥	A	B ・最終年度でもあり、社会にでて恥ずかしくない基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・生徒個々の希望に応じた進路指導を継続するとともに、進路希望未定者へ一層の働きかけを行っていく。
		模擬テストや実力テストを実施することで、生徒が学力を確認し、向上する意欲を持たせる。	⑤⑥	A	
		家庭学習が定着するよう、家庭との連絡を密にし、的確な指導・支援を行う。	⑦	B	
	基本的な生活習慣を身につけさせる。	面談や観察を通して生徒個々を把握し、的確な指導を行うことで、年次全体の健全な成長を促す。	⑩	B	
		ルールを守る、挨拶の励行、適切な言葉遣いなど基本的な生活習慣を確立させる。	⑩	B	
		時間に対する意識づけをする。（遅刻をさせない。）	⑩	B	
適切な進路の方向性を決定させる。	情報の提供を積極的に行い、面接を適宜実施して、生徒の希望・能力・適性を把握する。	④	B		
	将来を考えた、長期的かつ多角的な視点から分野を選択させ、どの進路にも対応できる学力を育む。	⑧	B		
1年次	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。	心身の健康を保つためHT、MTが協力し適宜面談等の指導を行う。	⑪	A	B ・進路、学習に対して目標をもたせる指導の推進。 ・学力向上のため家庭学習の習慣を定着させる。また外部講師により刺激を与えてもらう機会を設ける。 ・朝の小テストに全員が前向きに取り組めるような指導をする。 ・生活面での乱れが出ないよう年次内および家庭と密に連絡を取り3年次に良いつながりができるようにする。
		集団生活の中で、時間およびルールを大切にすることを意識して生活させる。	⑩	B	
		挨拶や言葉使いを正し、高校生としての品格を高めていく。	⑩	A	
	学習習慣を定着させる。	授業を大切に、積極的に取り組む姿勢を養う。	⑤	B	
		朝の小テストや週末課題等に関連させて、家庭学習に取り組みせ、その重要性を説く。	⑦	C	
		自習室やQ&A室など、学校の施設を有効活用していく。	⑧	B	
	適切な進路の方向性を決定させる。	将来を考えた、長期的・多角的な視点から分野を決定させ、どの進路にも対応する学力を育む。	①	B	
		資格取得により幅広い進路選択の可能性を探る。	⑨	A	
		インターンシップや上級学校見学により早期のうちに進路希望先を体験する。	⑰	B	
	特別活動へ積極的に参加させる。	部活動への加入を促進し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑭	B	
行事・委員会・ボランティア活動への参加により高校生としての幅を広げる。		⑫	A		

※評価基準 A:大変よくできた B:よくできた C:やや不十分 D:不十分